

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (中等) (2 単位)	3. 科目番号							
2. 授業担当教員	三浦 亜紀								
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>臨床心理学とは、人間がより健康的に生きるために心理学の知見を大いに活用する学問のことである。心理学の分野のなかでも、特に実践的かつ応用的なものであり、そのため、学問の全体を学ぶことはなかなか大変な事柄である。そこで本講義では、臨床心理学を支える専門知識として、①面接、②査定、③地域援助、④研究の4点を取り上げ、その理解を主な目的とする。そして時間の許す限り、教育、福祉、医療、社会における臨床心理学の役割、たとえば健康の維持や予防について言及する予定である。</p> <p>※養護教諭、高校教諭 (公民) を希望する学生等が履修します。</p>								
8. 学習目標	<p>臨床心理学とはどのような学問体系かわかるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 臨床心理学の構造を理解し、説明することができる。</li> <li>2 面接、査定、地域援助、研究のそれぞれについて理解し、説明することができる。</li> <li>3 面接と査定については、理論とあわせ実践に役立つ技術についても理解し、説明することができる。</li> <li>4 地域援助は、教育、福祉、医療、社会の領域における臨床心理学の役割について理解し、説明することができる。</li> </ol>								
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	事前学習において、授業で扱う臨床心理学の内容について確認し、興味のある事柄についてまとめておいてください。毎回の講義後に、事前学習の内容に加え、授業で学んだことについても書き記した、コメントペーパーを求めます。								
10. 教科書・参考書・教材	教科書は特に指定しません。 参考文献については、授業内で紹介します。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学の構造、面接、査定、地域援助について理解し、説明できる。</li> <li>2. 臨床心理学の役割を理解し、学んだことを実践の場でどのように応用するかを考察できる。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業態度と参加姿勢</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業態度と参加姿勢	総合点の20%	2 試験	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の40%
1 授業態度と参加姿勢	総合点の20%								
2 試験	総合点の40%								
3 課題レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明します。受講希望者は必ず1回目の授業に参加してください。事前学習において、事前に授業内容に関連する興味のある事柄について調べておいてください。								
13. オフィスアワー	決定次第、通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	<b>オリエンテーション</b> <b>臨床心理学とは？：基礎と成り立ち</b> (1) 臨床心理学とはどのような学問か (2) 臨床心理学の対象はどのような人々なのか 第1回では、講義に関するオリエンテーション (評価方法や課題レポート、試験の概要について) を冒頭に実施する。また、臨床心理学という学問がどのような学問で、どういった人を対象にし、何に役立つのかについて概観する。	事前学習	シラバスに目を通し、評価方法や受講ルールを確認しておく。						
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。						
第2回	<b>心の問題と向き合う・抱える</b> (1) ストレスと心の問題 (2) 心の問題を理解するには？ 上記の(1)では、心の問題について理解を深める。(2)では、心の問題を理解するにはどうしたらいいのかについて理解を深める。	事前学習	事前学習において、ストレスと心の問題や心の問題を理解することについて、調べておく。						
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。						
第3回	<b>心理アセスメントの基礎</b> (1) アセスメントとは何か (2) アセスメントを実際にどう生かしていくのか 上記の(1)(2)から、アセスメントについて、理解を深める	事前学習	事前学習において、心理アセスメントに関し、調べておく。						
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。						
第4回	<b>心理アセスメントの応用：学校現場でどのような行動を観察するのか</b> (1) 対象者の行動を理解するために必要な情報 (2) 対象者の行動を支えるために必要な行動 上記の(1)(2)について、事例を通し、対象者の行動の理由を考える。考える際に、支援者としてどのようにアセスメントを行い、対象者と関わると良いのかについて理解を深めることを目的とする。	事前学習	事前学習において、学校現場での心理アセスメントに関し、調べておく。						
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。						
第5回	<b>心理アセスメントの応用：応用行動分析的援助法</b>	事前学習	事前学習において、応用行動分析に関し、調						

	(1) 主要反応訓練 (2) 先行条件マネジメント (3) 機能アセスメント 上記の (1) (2) (3) について、望ましい行動を育てる考え方の検討を行い、スモールステップの見直しとシャイピングを具体的に用いる。	事後学習	べておく。 講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 6 回	<b>心の病気①：不安障害</b> (1) 心の病気と身体の病気の違い (2) 不安障害ってどんな病気？ (3) 児童生徒と心の病気 不安障害はどのような病気なのか、不安障害と児童生徒との関わりについて概観する。	事前学習	事前学習において、不安障害に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 7 回	<b>心の病気②：気分障害</b> (1) うつ病ってどんな病気？ (2) 躁うつ病ってどんな病気？ 気分障害に含まれるうつ病や躁鬱病はどのような病気なのかや、どのような症状を呈し、どのようなケアが必要なのかについて概観する。	事前学習	事前学習において、気分障害に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 8 回	<b>心の病気③：統合失調症</b> (1) 統合失調症ってどんな病気？ (2) 統合失調症の人の体験している世界？ 統合失調症はどのような病気なのかについて概観する。	事前学習	事前学習において、統合失調症に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 9 回	<b>心の病気④：摂食障害</b> (1) 摂食障害ってどんな病気？ 摂食障害はどのような病気なのかや、発病のきっかけ、摂食障害と児童生徒との関わりについて概観する。	事前学習	事前学習において、摂食障害に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 10 回	<b>受容と共感とは</b> (1) 受容とは (2) 共感とは (3) 対人援助職における受容と共感 (1) (2) の Rogers, C. R のカウンセラーの 3 条件とされる態度を理解することを目的とする。	事前学習	事前学習において、受容と共感に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 11 回	<b>相手の体験に寄り添う</b> (1) 被援助者という体験 (2) 援助者という体験 第 11 回では、これまでの学びを生かし、ロールプレイを通して「寄り添う」ということは一体どのような体験なのかについて深めることを目的とする。	事前学習	事前学習において、被援助者と援助者の体験に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容やロールプレイ体験に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 12 回	<b>学校現場で生じる心の問題</b> (1) 発達の過程で生じる問題 (2) 子どもや家族の問題 (3) 教職員のメンタルヘルスの問題 第 12 回では、学校現場における心の問題に触れながら理解を深めることを目的とする。	事前学習	事前学習において、学校現場で生じる心の問題に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 13 回	<b>問題への介入：スクールカウンセラーの利用</b> (1) スクールカウンセラーとは (2) スクールカウンセラーの仕事 (3) スクールカウンセラーに相談する時の一工夫 第 13 回では、スクールカウンセラーの仕事について、学校に対してどのような役割を担っているのか、どのような対象を援助するのかについて理解を深める。	事前学習	事前学習において、スクールカウンセラーに関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 14 回	<b>問題への介入：学習に関する問題</b> (1) 学習の問題への対応を考える基本 (2) 学習への困難さの背景 第 12 回では、上記の (1) (2) における学習の困難さについて、発達の問題を取り上げ、検討する。	事前学習	事前学習において、学習の問題や発達障害に関し、調べておく。
		事後学習	講義の内容に関して、自分自身の考えを整理しておく。
第 15 回	<b>これまでのまとめ</b> 第 15 回では、これまで講義で取り扱った内容に関して、学習内容の定着を確認するための試験を実施する。試験範囲は第 1 回～第 14 回までの講義内資料からの出題とする。試験実施後、その場で模範解答と解説を加えることで、これまでのまとめとする。	事前学習	事前学習において、これまでのまとめに関し、試験に備える。
		事後学習	試験の内容に関し、間違えた箇所を見直すこと。
期末試験			